The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ヴォーリズの建築活動にみる特色 ： 「近江ミッション住宅」の環境について
Author(s)	山形, 政昭
Citation	デザイン理論. 2012, 59, p. 86-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53473
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ヴォーリズの建築活動にみる特色
──「近江ミッション住宅」の環境について ──

山形政昭／大阪芸術大学

1905年に滋賀県立商業学校英語教師として来日し，その後近江八幡を拠点として種々の事業と共に進められたウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築活動は当初アマチュア建築家と云われる如く，母国で体験的そして意識的に認識されていたはずの米国建築の流れを引くものであった。その特色は1910年のヴォーリズ合名会社開設に始まる初期作品，とりわけ近江八幡池田町で1913～14年に建てられた３棟の住宅よりなる「近江ミッション住宅」(注1) に鮮明に見出せるものである。ここでは，その建設の経緯と居住者による生活を検討し，ヴォーリズの建築活動における「モデル」として機能した状況について述べた。そしてそこで実践しようとした指針は米国におけるプロテスタンティズムの思想に由来するものと考えられること，またその造形意匠の傾向など米国のアーツ・アンド・クラフツの意匠に通じるものが見出せることを指摘した。

１．近江ミッション住宅の居住者と生活

1913～14年に生まれた近江ミッション住宅の居住者はミッション活動の一端として，私的住宅における活動にも積極的に取り組んでいた。夫々の居住者を上げると，ヴォーリズ邸にはメレル・ヴォーリズと共に1914年に来日した氏の両親，弟が当時居住していた。彼らは宣教師ではなかったが，各々に宗教活動に熱心なキリスト教（長老派）家族であった。また，メレル・ヴォーリズは来日直後より知己を得ていたG. フェルプス（京都 YMCA 主事），エマ・カフマン（東京 YWCA の宣教師）との交流も当地において行われていた。吉田邸にはメレル・ヴォーリズの教え子で第一の協力者となった吉田悦蔵が母柳子と共に居住した。吉田柳子はキリスト教を自ら理解するため，水戸の宣教師ビンフォード夫妻と交流し，やがて夫妻が養成した渡辺清野を見出し，1916年に悦蔵の新嫁として迎えている。つまり吉田邸はメレル・ヴォーリズの協力者としての吉田悦蔵に加えて，母柳子がキリスト教徒となったこと，さらに清野のキリスト教主義による活動の場とされていた。ウオーターハウス邸にはハートフォード神学校卒でキリスト教活動を支援した宣教師ウオーターハウス夫妻が居住し，夫人ベッシイは1916年に吉田家に嫁いだ清野と共に住宅において洋式生活の教育，普及活動を行っていた。

つまり，近江ミッション住宅地はコロニアル式の住宅に特色を示したことに加えて，居住者夫々にキリスト教主義に基づく生活が実践されていたのであり，キリスト教徒の生活モデルを目指したものであった。

２．軽井沢における近江ミッション・コテージ

ヴォーリズは夏期活動の拠点とした軽井沢において，1913年以来10数棟の米国人宣教師のコテージ，そして近江ミッション・コテージを設計している。それらは避暑生活を目的として自然環境に馴染む簡素な建築が多く，その典型的な作例に1922年に建てられたヴォーリズ夫妻の山荘があり，約10坪の寄棟造りのコテージだった(注2)。その小規模なコテージでの生活に，ヴォーリズが目指した自

然志向の生活観と，簡素な生活に宗教的価値を置くピューリタン精神が見出せる。

3．ドメスティシティーという思想

19～20世紀の米国において，合理的生活，健全な家庭生活を志向する家政学 domestic science が生まれている。教育者でその論者であったキャサリン・ビーチャーは次のように述べていた。

> 「真のキリスト教徒のホームは効率的に家事が行われるように作られ，換気がよく，清潔で，暖房の設備が整っていて，収納の場所がたっぷりあり，洗濯や食事の準備がすばやくでき，趣味よく室内が装飾されたものであった。」(注3)

つまり，真のクリスチャンホームの生活には合理性，健全性が求められるとし，当時の家政学において合理性，健全性が整った住居にある美的性格をドメスティシティーと呼んでいた。

近江ミッション住宅地に生まれた環境と実践された生活から発信されたクリスチャンの生活には，「健康な生活」「合理的生活」「健全な趣味」がみいだせるのであり，それらはドメスティシティーという思想に基づくものだったといえる。加えて，軽井沢コテージで試みた「自然志向」と小住宅における簡素な合理的生活の有する豊かさを理想とするヴォーリズの生活思想があった。そうしたヴォーリズの住宅観が住宅の設計を幅広く論じた著作『吾家の設計』(1923)『吾家の設備』(1924) に表明されているといえる。

4．米国におけるアーツ・アンド・クラフツとの関連性について

米国においてアーツ・アンド・クラフツを志向した家具デザイン作家の一人，G. スティックリイによるクラフツマン・ワークショップスの生産家具にはヴォーリズの住宅家具との類似性が指摘できる。そして氏が仲間と建築活動をおこなったザ・ユナイティド・クラフトによる住宅インテリアのなかにはヴォーリズの住宅設計につながるものも認められる。またカリフォルニア地域に見る住宅建築の特色として，ミッション・スタイルの建築，そして合理主義的 simple style といわれる流れがあり，H. ガターソンによる「ローズ・ウォーク」(1924，注4) の試みなどにみる住宅スタイル，住宅環境の上から近江ミッション住宅との類似性が指摘できる。

つまり，ヴォーリズ初期の建築活動，とりわけ木造コロニアル・スタイルによる住宅建築には米国アーツ・アンド・クラフツの流れにみる意匠的特色を備えるものが種々あり，ドメスティシティーを標榜した生活思想と合わせて「アーツ・アンド・クラフツ」の造形思想に通じるものが認められるのである。

注1）拙書『ヴォーリズの西洋館』(2002) にて，「近江ミッション住宅」の概要を述べている。
注2）前注拙書，「浮田コテージ」として概要を述べている。
注3）キャサリン・ビーチャー，ハリエット・ビーチャー・ストウ『アメリカ女性のホーム』(出典：奥出直人『アメリカンホームの文化史』1986)
注4）Robert Winter “Toward a Simpler Way of Life” Univ. of California Press, 1997, pp. 73～82.